



11月11日は「介護の日」 ～講演会のご案内～



沖縄県では「高齢社会は県民全体で支えるもの」という考えを広め、介護を必要とする方や介護従事者だけでなく、社会の一員として地域における介護の充実を図ることを目的に、毎年「介護の日」講演会を開催しています。笑いを交えた介護落語をぜひ聴きにきて下さい。



演目

「落語家さんのヘルパー修行日記 ～介護は十人十色！～」

日時 11月11日(水) 14:00～16:00 ※開場13:30

場所 パレット市民劇場 入場無料(申込不要)

講師 林家源平 氏(落語家) 1950年9月3日 愛媛県生まれ
故・林家三平氏に師事し、「笑点」などのバラエティ番組、ドラマ出演、情報番組のレポーターなどで活躍。また、介護ヘルパーの資格を取得し、平成16年から5年間介護老人保健施設でデイサービス勤務を経験。

問い合わせ 沖縄県介護実習・普及センター(TEL:098-882-1484)

介護の日とは？

厚生労働省では平成20年から「いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう」にかけて、11月11日を「介護の日」と定めて、介護について理解を深め、地域社会において介護が必要な方や介護をする方など、住民同士の支え合いや交流を進める取り組みを行っています。



沖縄県の介護をとりまく現状

県でも全国的な傾向とほぼ同じく、近い将来、生産年齢人口は減少し、逆に人口に占める高齢人口は増加することが予想されています。いま、約27万9千人の高齢人口は、2025年には約35万3千人を超え、それに伴い必要な介護従事者も県内だけで約4,500名不足することが見込まれています。介護が必要な方が、必要なときに受けられるよう県全体の取り組みが進められています。

「沖縄県介護実習・普及センター」とは？

福祉用具の紹介や介護に関する各種研修会などを通じて、高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して自立した生活を送ることができるようサポートを行っています。詳細はホームページをご覧ください。

URL <http://www.okishakyo.or.jp/kaigozisyu/>



お問い合わせ

県高齢者福祉介護課 電話:098-866-2214 FAX:098-862-6325

シリーズ⑥

読谷村の 紅いも天ぷら

気取らない素朴な美味しさ

日本で最初にさつま芋が栽培されたという沖縄。食糧難の時代には主食としても食べられ庶民の暮らしに欠かせない作物でした。

読谷村は古くから良質のさつま芋の産地として知られる地域。平成元年には地元で栽培されていた紅いもによる村興しに取り組み、内外にアピールしてきました。今や沖縄土産として人気の高い菓子をはじめ、紅いもを飼料にして育てたブランド豚などを次々と商品化するなど、紅いもパワーを発揮しています。

甘くてホクホクした紅いもは焼き芋や昔懐かしいウムニ(芋煮など)にしても美味しいものですが、何といても一番人気は大分。沖縄ならではのフリッターのような厚めの衣の天ぷらはおかずとしてだけでなく、おやつとしても親しまれています。

さあ、食欲の秋。読谷育ちの紅いもで、アチコーコーの天ぷらを作ってみませんか。



ふるさと卓食

「健やかな笑顔の素・食と体づくり 読谷村」



注目し、改めて YNW(読谷ノルディックウォーキングクラブ)を始動。健康づくりはもちろん村内を歩くことで地元再発見などを楽しんでいます。

読谷村では平成26年、村民の健康づくりのモデル事業として「運動不足部」を発足。期間限定で全12回のプログラムを実施しました。事業終了後、プログラムの中から特に楽しみながら全身を鍛えることができる「ルネックウォーキング」に

楽しみながら運動不足を解消

